

在日韓国人が初提訴

公式謝罪求めて

准」や国際慣習法としてのもの
「人道に対する罪」など国際法違反に基づく損害賠償責任——を根拠に、政府を迫及する。

原告弁護団や支援者らは提訴に備え、「解放」された直後の宋さんを目撃していた旧軍人から当時の様子を聞き取りするなど、第三者の証言も集めたという。

提訴後、弁護団とともに第二東京弁護士会で記者会見した宋さんは「恥ずかしい気持ちはあるが、戦争の犠牲になった思いを、死ぬ前に話しておきたかった」と動機を語った。

慰安婦問題では、九一年十二月以降、韓国人女性計十一人が戦後補償を求め、東京地裁、山口地裁下関支部に提訴。今月二日にはフイリン人女性十八人が同じく東京地裁に集団提訴している。

井護団の中心になった在日韓国人、金敬得井護士の話。これまで韓国やフイリンなど「海の向こう」からつぎつけられていたこの問題が、足元から火が付い

た。在日の韓国人元慰安婦は沖縄に数人在住していたと聞いている。すでに死亡した人もおり現在何人が生き残っているかなど詳しいことは分からないが今後さらに被害者が名乗り出てくる可能性もあり、その援護措置など対策が焦点になるだろう。



井ノ口士らに囲まれ東京地裁に入る宋神道さん（前列右） 11月5日午後2時20分すぎ

デスワの目

フィリピンの「ユーゴの情勢は知っている。元慰安婦たちの過去と同じような状況だ」と思っている。だが、彼女たちの正義はいまだに回復されていない」と力説した。長い間の沈黙を破り、

考えてみれば、日本人はこの問題の当事者なのだから、これまで追及され

た。されない限り、彼女たちの心の中で「戦後はまだ終わっていない」と思っ

た。

慰安婦の心はまだ戦後

性が多く、経済戦争の犠牲者でもあるじやばゆきさんもある。戦後五十年もたつて、いま提訴したのはなぜと切り出した。すかさず花井重安婦の支援グループの一人は「反省の気持ち」を表す唯一の方法は、言葉や金銭でなく、彼女たちが言うように、まず事実関係やつとの思いで過去の苦い経験を打ち明けた彼女たちの話は、涙なくして聞けない。自分たちの身につきたすさまじい出来事に対し、謝罪だけでなく、きちんと責任が追及

かったことをいいことの問題を放置してきたのではないか。

「反省の気持ち」を表す唯一の方法は、言葉や金銭でなく、彼女たちが言うように、まず事実関係

係の究明に全力を尽くす
 ことだ。裁判を通じ、日
 本政府をその方向に動か
 すのが目的だと、支那書
 の一人は語った。
 従軍慰安婦の問題の根
 本には女性、民族差別と
 いう根深い問題がある。
 「じやばゆきさ
 ん」への日本人の対
 応を見ると、戦争当時と
 意識の上ではあまり変わ
 っていない。求められて
 いるのは、現代に生きる
 日本人一人ひとりの意識
 改革ではなかるうか。
 (外報部・阿部雅之)

(外報部・阿部雅之)